

# ふるさとわがまちづくり

## 押沢自治区

### ◆「押沢」の由来

押沢自治区は、平成17年4月合併前の豊田市では北東のはずれでしたが、合併後の豊田市では中心よりやや北側に位置します。市街地からの風景は、押沢町に近づくにつれて緑が深くなり、矢作川も何となく上流の荒々しさを感じられます。

県道豊田・明智線から当区へ入ってくると、山が押し迫る狭い谷間があり、通称『掘切』と呼ばれる所があります。その昔は、この谷間がふさがれていて、当区一帯は鴛がたくさん生息した湿原が続き、『押沢』は『鴛沢』と呼ばれていたようです。

現在の戸数は14戸（平成21年1月）余りですが、昔から大きな変動はなく、風景は昔も今も変わっていません。今でこそ勤めに出る人がほとんどですが、昔は朝早くから夜遅くまでよく働き、米作と養蚕に加えて、冬は炭焼きをする農家も多かったです。

とにかく、山間の村ですので、



昔は、人の足が全ての交通方法でした。古老の話では、学校は花本町の学校（現在の青木小学校）まで片道10キロメートルを毎日通ったり、米俵や炭俵を担いで越戸や瀬戸の赤津まで運んだりしたといえます。

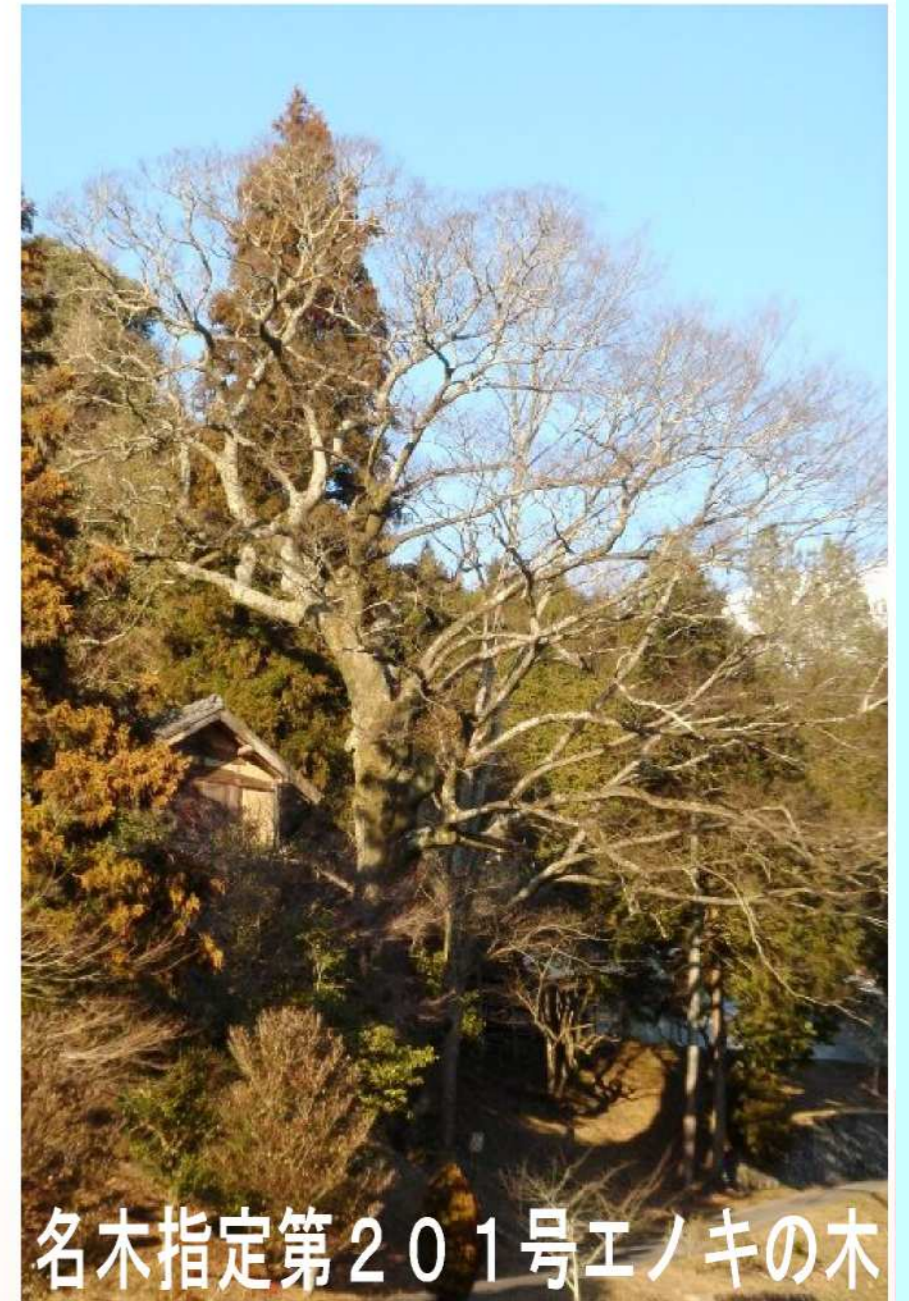
また、東海豪雨はまだ記憶に新しいところですが、47.7豪雨では、道路は至る所で寸断され電気も消え、完全な孤立状態になった時は、本当に呆然としたものです。その後、市や県をはじめ、暖かい救援の手が差し伸べられ、勇気づけられました。



押沢川

### ◆「押沢」の課題

こんな、のどかな町にも、時代の波はヒタヒタと押し寄せています。一時当区を離れて移住した人達のUターン現象が見られましたが、少子高齢化は避けられません。藤沢小学校の存続が危ぶまれています。地域一丸となって取り組み、平和で静かな住みよい町になれば良いと思います。



名木指定第201号エノキの木



押沢町ののどかな風景

### 押沢自治区データ

(H20.4現在)

世帯数：16世帯  
：16世帯（昭和52年）  
組数：3組  
面積：1.044Km<sup>2</sup>  
回覧：月2回  
防犯灯設置箇所：16箇所  
小学校：藤沢小学校区  
自治区会館：押沢町公民館